

シマ株式会社

設立 : 1963 年
代表者 : 代表取締役社長 島 直幹
従業員数 : 47 名 (2023 年 7 月現在)
所在地 : 香川県観音寺市
事業内容 : 一般家庭向け家電製品の研究・開発及び製造・販売
選出理由 :

- 誤使用事故の防止に向けた製品設計
誤使用による製品事故を引き起こす可能性がある子どもやペットがいる家庭においても安全に使用できる製品となるよう、危害要因になる熱エネルギーの制御を特に意識した製品設計を行うことで、転倒などの際に動作が停止し、加熱部が発火等を引き起こす温度まで上昇しないといった機能を実装させている。
- 製品事故や安全規格に関する情報収集と自社基準への取り入れ
類似製品も含めた製品事故の情報を収集し、その実態を踏まえた社内基準の見直しを行っている。また、電気用品安全法上、自社製品に関する規定がなく、対応した試験基準がない現状を踏まえ、関連する国内外の公的機関による認証取得等を最低基準とすることを社内文書で明記し、従業員に周知するとともに、これを遵守している。
- 製造上の不具合リスクを最小化する外注先への明確な指示
危害要因となりうるバリや突起に特に着目し、これらの発生を最小化するため、設計図や製造委託先への要求仕様書、品質保証基準書等で明確に指示することを徹底している。バリ取りなどの手直しによってではなく、そもそもバリを発生させない金型設計を意識して取り組んでいる。

丸栄タオル株式会社

設立 : 1989 年
代表者 : 代表取締役社長 村上 誠司
従業員数 : 79 名 (2023 年 9 月現在)
所在地 : 愛媛県今治市
事業内容 : タオル製品製造、卸、小売業
選出理由 :

- 使用者の特性に最大限考慮したものづくり
特に肌がデリケートな乳児に対し、肌の摩擦による湿疹や蛍光染料によるアレルギーの危害を最小化するため、原材料に繊維長の長い綿を使用することで摩擦の少ない柔らかい繊維を実現するとともに、蛍光染料を含めた化学薬品を一切使わない製造工程を確立するなど、使用者の特性に最大限に配慮した製品安全の確保に寄与するものづくりを行っている。
- 異物混入のリスクを最小限に抑える徹底した取組
製造工程で混入しうる綿埃や折れ針が製品安全上の危害要因となることを意識し、これらの混入するリスクを最小化する取組を徹底している。綿埃については整経場、機場、仕上場といったすべての作業エリアに全風量空調機を設置し、空気中の埃を除去している。また、折れ針については、検針機による検査および装置の校正に加え、異物の混入が疑われる場合は原因究明と問題解決を最優先としている。
- より厳格な業界基準の策定への貢献
地域の工業組合において経営トップがリーダーシップを発揮し、他の業界団体と協議を重ねることで、製品安全上の危害要因となるホルムアルデヒドの含有量に関する項目を含めた、当時の全国的な業界基準よりさらに厳格な「今治タオル認定基準」の試験項目および合格基準の策定に貢献している。